

# SHOW-HISVシネマフルーツ

★★★★

## 消防士 2001年、闘いの真実

2024年／韓国映画

配給：アルバトロス・フィルム／106分

2025（令和7）年7月19日鑑賞

テアトル梅田

Data

2025-62

監督：クアク・キョンテク

出演：チュウォン／クアク・ドウォン／ユ・ジェミヨン／イ・ユヨン／キム・ミンジェ／オ・デファン／イ・ジュニヨク／チャン・ヨンナム

### みどころ

消防士は国家公務員？火事の現場で要救助者の救助のために命を失った場合、その補償は？警察官も大変だが、消防士も大変だ。

『タワーリング・インフェルノ』(74年)を見れば、超高層ビル火災への対処がいかに大変かがわかるが、ソウルの密集市街地で2001年3/4に起きた弘済洞火災の大変さは？そして、同火災におけるソウル市西部消防署の消防士たちの“闘いの真実”は？

韓国映画には熱血漢と人情ドラマがよく似合うが、本作はまさにその典型！冷静な隊長と熱血ファイヤーマンの班長2人のキャラを対比しつつ、新入り隊員の選択と成長に注目！

他方、火災の原因究明はもとより、消防体制のあり方についての総括と改善策の模索が不可欠なことは、2025年7/20の参議院議員選挙で大敗した自民党の石破茂首相の姿を見ても明らかだ。したがって、本作でその点の指摘がないことに、私は少し不満！2020年の法改正で消防士を国家公務員にしたというのは、いくら何でも遅すぎるのでは・・・。

### ■□■2001年「弘済洞火災惨事事件」とは？極限職業とは？■□■

アメリカでは2001年9/1に世界同時多発テロが発生したが、韓国では2001年3/4に「弘済洞火災惨事事件」が発生！本作のパンフレットには、韓国における消防士の法的地位の問題等を踏まえた上で、「弘済洞火災惨事事件」の“闘いの真実”が描かれているので、それに注目！本編中のセリフでも、「消防士は公務員じゃない！」と呼ばれていたが、その意味は？また韓国には「極限職業」という言葉があるそうだが、その意味は？

他方、クアク・キョンテク監督は、『友へ チング』(01年)が代表作だが、『長沙里 9.15』

(19年)『シネマ47』221頁)では実話を元に素晴らしい物語を作り上げた。そんなクアク・キヨンテク監督が「弘済洞火災惨事事件」という実話を元に本作を監督し、「385万人動員の大ヒット!!2024年韓国国内映画興行収入トップ5ランクイン!!」を成し遂げたからすごい。

## ■口■ソウル市西部消防署に配属！新入りの戸惑いは？■口■

日本の戦争映画の名作『人間の條件』(59年～61年、全6部作)の第1部、第2部では、民間企業から「懲罰徴兵」された主人公・梶が、新入りの陸軍二等兵として過酷な訓練を受ける姿が描かれていた。それを見ると、当時の日本陸軍では、新入り二等兵にとって古参の一等兵や上等兵が絶対的な存在だったことがよくわかる。

それに対して、ソウル市西部消防署に配属された新入り消防士チョルン(チュウォン)の待遇は？

## ■口■西部消防署の熱き絆と結束は？この姿は今や昔！？■口■

そんなクアク・キヨンテク監督が本作導入部で描く西部消防署は、隊長のカン(ユ・ジエミョン)と班長のジンソプ(クアク・ドウォン)の意見の違い(?)はあるものの、班長の下で働くヨンテ(キム・ミンジェ)、ヒョジョン(オ・デファン)、キチヨル(イ・ジュニヨク)ら若手の消防士たちの絆と結束は固い。したがって、初出勤の日に起きた火災現場でチョルンは何の役にも立たず、足手まといになるだけだったが、まずは隊員たちの素晴らしい働きに注目！そこには、紅一点のソヒ救急隊員(イ・ユヨン)の姿も。

本作前半では、消防士たちが火災現場のみならず、いつも集まる料理屋でも、アフターファイブのカラオケでも、互いの絆と信頼を高め合う姿が描かれる。こんな風景は昭和の高度経済成長時代の“多くの職場”でも見られたが、令和の時代に入った今はこんな熱い職場は絶滅してしまったはず。だって、今は、やり手の課長が、「今晚、飯でも・・・」と新入社員を誘えばパワハラ、それが女子社員であれば下手するとセクハラになってしまう。したがって、あくまで本作前半の西部消防署における消防士たちの熱き絆と結束ぶりは、21世紀に至る前の姿と捉えなければならない。

## ■口■消防の権限は大問題だが、指揮命令の乱れも大問題！■口■

スティーブ・マックイーンが消防士を演じた『タワーリング・インフェルノ』(74年)は超高層ビルの火災という点が特徴だったが、アメリカにおける消防士の地位についての問題提起も鋭いものだった。同作では消防署内の指揮命令系統の問題点はなかったが、本作ではその一本化ができているか否かが一つの大きな問題点だ。すなわち、本作導入部では駐車中の車が多いため、火災現場に消防車が入れない、そのためホースを持った消防士が長距離を走らなければならないが、火の回りの方がそれよりも早いから火災鎮圧が遅れてしまうという問題点が指摘されていた。つまり、消防のための権限をどこまで持たせるべきかという論点だが、それと同時に、指揮命令系統が不統一という重大な問題点も！

西部消防署は要救助者の救出率で毎年トップを誇ってきた。もちろんそれは班長以下の

チームの大活躍によるものだが、要救助者の救助と隊員の命の保護は微妙な関係だ。したがって、燃え盛る建物の外から全体を指揮する隊長が、建物内の要救助者の救出のために突入した班長に対して、「救出を諦めて撤退せよ！」と命令すれば、班長はそれに従うのが当然！それを無視して救助者の救助に固執すれば、消防士は命がいくらあっても足りないはずだ。すると、本作導入部の火災では無事 1 人の子供を救出できたものの、ジンソプ班長が負傷したことや、ヨンテが犠牲になったことをどう総括すべき？

本作導入部ではそんな問題提起もされているが、その解決がされないまま 2001 年 3/4 「弘済洞火災惨事事件」が発生！そして、緊急出動が！

### ■口■班長の引退の決意は？妻の人生設計は？■口■

本作は「弘済洞火災惨事事件」の実話をクック・キョンテク監督が映画化したものだが、ドキュメンタリー映画ではないから、中盤では韓国映画特有（？）の濃厚な人間ドラマがジンソプ班長を中心に展開する。韓国の消防士の給料がいくらかは知らないが、どうせ安月給に決まっている。他方、神経性胃炎を患っている妻ドスン（チャン・ヨンナム）は、サイレンの音を聞いただけで鼓動が激しくなる毎日を送る中でも、息子のドンスと共に家族の生計を立てるため、ささやかなお店を持ちたいと願い、着々とその計画を進めていた。

本作中盤では、西部消防署の班長として韓国一の要救助者救出率を誇ってきたジンソプが、「あの火災」の救出現場でヨンテを失ったことを強く反省し、妻ドスンの意見も取り入れる形で、しばしの休養（引退？）を決断する姿が描かれるので、それに注目！

### ■口■火災の原因是？消防士の犠牲は？■口■

『タワーリング・インフェルノ』の火災原因は、意外にも過剰な経費節減のためのずさんな設計だったが、さて本作に見る弘済洞火災の原因は？

老朽化した木造建物の密集地帯は当然道路も狭いから、土地区画整理事業をはじめとする街路整備と建物の不燃化をテーマとした「まちづくり」が必要だ。しかし、韓国は日本以上にそれが遅れているため、ソウル西部消防署の管轄区域内には木造密集市



街地が多いらしい。

しかし、本作のハイライトとなる弘済洞火災は、その区域内の3階建てアパートからの発生だが、そのアパートの一角が消防士たちが集まる、おいしくて安い大衆向け（西部消防士向け？）の食堂だったところが本作のミソだ。そんな食堂のおばさんはもちろん消防士たちと大の仲良し、そして消防士たちを自分の息子のように可愛がっていたから、おばさんのサービスはいつも絶好調だった。もっとも、そんな店の経営も後継者がいなければ途絶えてしまうから、1代限りで閉店！それはそれで止むを得ないが、このおばさんの一人息子はバクチばかりやっている放蕩息子で、店に帰ってくるのはレジから小遣いをむしり取っていく時だけだから、始末が悪い。

しかも、ある日の夜、母親が寝ている間に家の中に侵入してきたこのバカ息子はガサガサと書類を探していたから、それは一体なぜ？ここまで見れば、弘済洞の火災原因は容易に推測できるが、本作が面白いのは、火の手が燃え盛り、隊長が撤退命令を下す中、おばさんが必死で息子の姿を探していること。どうやら、あのバカ息子が3階に“要救助者”として残されていたわけだ。さあ、そんな状況下、班長と若い消防士たちの行動は？

## ■口■「闘いの真実」をいかに総括？いかに改善？■口■

2025年7/20の日本における参議院議員選挙で、「自公（与党）で過半数」の必達目標を達成できず大敗したにもかかわらず、翌21日、石破茂総理は“続投宣言”をしたが、これはいくらなんでもハチャメチャだ！大敗の原因を一体どう総括し、どう改善策を求めていくの？

そう考えると、本作は邦題のとおり、弘済洞火災の「闘いの真実」は描かれているが、班長のジンソブや若き隊員イヨンテ、ヒョジョン、キヨルを失った悲劇の総括は全く描かれていない。また、本作中盤では、消防車の通行を遮っている違法駐車両を強制的に撤去させるための改善策や装備の改善策等の議論も全く進展しない中、隊長のポケットマネーによるドイツ製の手袋の購入という小手先の対処法が描かれているが、それではダメなことは明らか。指揮命令系統統一のための改善策を含む抜本的な改善が不可欠だ。

そんなことを自覚したチョルンが厳しい現場を離れて、幹部になる幹部登用試験を目指したのは、私にはむしろ当然と思えるものだ。しかし、“熱き心”が大好きな韓国（映画）では、それはあまり望ましい方向ではないらしい。つまり、韓国民の多くはジンソブ班長のような生き方に惹かれるらしい。その結果、チョルンの選択は？

パンフレットによると「消防士が国家公務員として待遇されるようになったのは2020年と、つい最近らしい。消防士が「極限職業」だということは、本作の「闘いの真実」を見ればよくわかるが、その改善に20年近く要したのは一体なぜ？私は少なくとも本作のラストで、そんな問題提起を明確に示して欲しかったと思ったが、さてあなたは？

2025（令和7）年7月23日記